

「重荷を取り去るクリスマス」

～ Adventus ～

ヨハネ I 4:7～16

ある少年がクリスマスに自転車がほしいと祈っていました。友達も皆持っている。僕も自転車がほしい！祈る少年の目にクリスマスツリーに飾られているマリア様の人形が映りました。少年はその人形をタオルでぐるぐる巻きにしてタンスにしまいました。そして「イエス様、もし自転車をくれなかったらマリア様に会わせないよ！」と祈りました。クリスマスはプレゼントをもらう日になってしまっています。

1949年12月18日、朝日新聞の「天声人語」から

「戦後、キリスト教はたしかに盛んになったが、それよりもいっそう、クリスマス狂がお盛んになった。それは宗教上のクリスマスではない。商業政策のクリスマスでありデカダンのクリスマス、キリストの欠席クリスマスである。クリスマスは騒ぐような連中に『聖書』の一行でも読んで人がどれだけのいるだろうか。いかなる本がベストセラードと言っても『バイブル』にはかなわない。聖書が何世紀にもわたって世界一の地位を占め続けているといえ、クリスマス狂徒は驚くにちがいない。もしも、お前がただ一人で絶海の孤島に住まなければならぬとして、たった一冊だけ書物の携行を許されるとすれば、どんな本を選ぶか。西洋人なら言下に『バイブル』と答える。クリスマスチャンならずとも聖書はそれほどあらゆる意味において面白い本だ。クリスマスでピエロ帽子をかぶって酒を飲む前に、だまされたと思って、聖書を10ページほど読んでみたまえ。」

この記事を読んで聖書を手にとった人がいました。はじめて手にする聖書でしたが、夢中で読み進むうちに「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分ではわからないです。」(ルカ 23:34) という言葉に出会いました。キリストが十字架の上で自分を傷つける人に対して神に赦しを願った祈りでした。この人の名は淵田美津雄さん。元海軍大佐で戦時中、真珠湾攻撃隊長として知られた人物です。彼は戦後、全く変わった価値観について生きていくべきかを悩んでいましたが、この聖書の言葉に出会って「生きる意味」を発見しました。そして真珠湾攻撃を指揮したことを重荷と感じていた淵田美津雄さんはこの聖句を読んで背負ってきた重荷を下ろし癒やされました。

このようにイエスキリストのクリスマスの奇蹟は人々に重荷を下ろす奇蹟をもたらします。ヨハネ I 4:7～16

クリスマスの反応

聖書の中でクリスマス（キリストの降誕）を喜んだ人は非常に少なく、エリサベツだけと行っても良いくらいです。エリサベツはヨハネを妊娠し出産の準備をしていました。彼女は妊娠できる年齢ではないのに、神の奇蹟によって子どもを授かり、出産の準備をしていました。そんな中でマリヤがやってきました。マリヤに会った瞬間、おなかの子どもが踊りました。それでエリサベツはマリヤに「あなたは女の中で祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。」といっけてマリヤの不安を取るさきかけを作りました。

しかし、それ以外のほとんどの人はキリストの誕生を無関心でした。(ヨハネ I:10～12) 人々はイエスキリストを受け入れませんでした。クリスマスはここからスタートします。今私たちの心に喜びがあるのでしょうか？それとも喜びの代わりに恐れ不安があるのでしょうか？エリサベツがなぜ喜ぶことができたのでしょうか。それはその前に準備があったからです。しかし、ほとんどの人はキリストの誕生をマイナスの要素を受け入れませんでした。

反応	聖書箇所	対象人物
喜び	ルカ1:44	エリサベツ
不安	マタイ11:3	ヘロデ
怒り	マタイ2:16	
大いなる悲しみ	マタイ2:18	母親
恐れ	マタイ2:22	ヘロデに対するヨセフ
胸騒ぎ	ルカ1:29	マリヤ
非常な恐れ	ルカ2:9	羊飼ひ
無関心	ヨハネ1:10～11	人々

アドベントの4週目、私たちはクリスマスをどのように迎えているのでしょうか？

アドベント(advant)はラテン語のアドベントゥス(Adventus)が語源とされており、「キリストの到来」を意味します。またこの言葉は英語のアドベンチャー(adventure)の語源となっているとされています。ですからアドベントは私たちにとって冒険であり挑戦です。私たちの人生は絶えず挑戦でなければなりません。その挑戦がなされるときに良い実をのこします。

バッハのカンタータ 147 番「主よ人の望みの喜びよ」という曲があります。バッハが晩年、目が見えなくなっていく中で神様から受けた恵みは音楽によって人々に残そうと考えて作った曲です。見

えなくなっていく中で妻に聖書のクリスマスの箇所を読んでほしいとバッハは願いました。妻が読み終わった後彼はこう言いました。「僕たちは悩みを悲しんではならない。この悩みは僕たちのためにすべてを悩まれた主イエスキリストに僕たちを近づけるものだから。」そしてこの曲を作りました。この曲の歌詞はこう歌っています。「主よ、人の望みの喜びよ。我が心を慰め潤す主。生命、命の君。主は諸々の災いを防ぎ、我が命の力、我が目に喜びたる太陽。我が魂の宝、またうれしき宿りとなりたまう。ゆえに我は主をはなさじ。この心と目をそいで。」バッハは命をかけてこの曲を書いて、それを私たちに残そうとしました。聖書のクリスマスのストーリーを見て、彼は心にクリスマスのメッセージを受け入れました。

1. 重荷を置く

私たちがこの愛のプレゼントを受け取った時、重荷を置くことをしなければなりません。ルーシスという医師が赤ちゃんを取り上げる時に非常に悩みました。母親はとても貧しくて、この子が生まれると生活は一層苦しくなる事が予想されたからです。そして出産の時、赤ちゃんは逆子で生まれました。しかも片足のない子でした。医師はこのまま死産にする方が良いのではないかと迷いましたが、赤ちゃんの足が医師の手を蹴りました。生きたいという赤ちゃんの気持ちを感じた医師は、夢中で取り上げました。片足で生まれた赤ちゃんはお母さんとともに退院していききましたが、医師はこのことをずっと悩み、重荷に感じていました。何年か後、病院でクリスマス会を開いたときのことです。一人の女性がハープで「きよしの夜」を演奏しました。そのとき、ある中年の女性が医師に言いました。「あの女性はあなたが以前この病院で取り上げた片足の子です。今はあんなに活発になって、色々な所に出かけては神様の愛を伝えて演奏をしています。」と知らされました。医師は感動し、また自分の思いが情けなくて、この女性を自分の部屋に招き、もう一度演奏してもらいました。彼はこのとき、何十年間も背負ってきた重荷を下ろすことができました。神様の摂理とはこのように、私たちの人生で目の前に起こったことで判断ができず理解できないことがたくさんあります。どうしてわたしが・・・と思うことが起こります。しかしそのようなとき神様は「あなたの重荷を下ろせ。そしてわたしの杖を持って歩け。」そう言われます。そして神様はそこに実を残し、奇蹟を起こされます。心を開いて信じようとする姿勢から奇蹟は起こります。私たちが信じることができなくなった暗闇を照らすためにイエスキリストは来られました。クリスマスは私たちがまっすぐになれる日です。

2. すべては神の御手にある

私たちの視線はすぐに人に対して「正義」をかざしてしまいます。しかし、神様があなたに「わたし(神)を見よ」と言われています。神様は見える体をもって来てくださいました。彼は私たちの外側を見るのではなく心を見られました。私たちが心を見ないと行けません。主があなたに「あなたを愛している。まっすぐに歩みなさい。」と言われている。従うことができるでしょうか？私たちは従えるでしょうか。ヘロデは恐れのためにすべての初子を殺してしまいました。頭が良く優秀な王様でしたが、恐れのためにこのような愚かなことをしてしまいました。あなたの人生で予期せぬ出来事が起きたときに、私たちはキリストを迎えられるでしょうか。キリストは私たちの最も汚い所に来てくださいました。もし誰かを自分の正義で裁いているなら、そこにキリストは来られました。人を裁くのではなく自分の使命に生きようと神様の前に出るとき、そこに奇蹟が起こります。

3. 愛のプレゼント交換

イエスキリストは誕生日にプレゼントをもらうのではなく、自らをプレゼントとして差し出しました。私たちがイエス様から与えられたプレゼントを誰かにあげようとする。このクリスマスの日を、本当に温かい心で喜びをもって過ごしたいと思います。神の家族が一つになってお互いに愛の関係を保っていく中に、あの最初の夜のように真っ暗な家畜小屋が輝くような光が訪れます。

私たちの人生には命をかけてやらなければならない事があります。教える者は教え、捧げる者であれば捧げ、伝える者であれば伝え、仕える者であれば仕え、与える者であれば与え、祈る者であれば祈らなければなりません。あなたの人生のアイデンティティーは何ですか。それを曲げたままにしておいて良いのですか。被害者のままで良いのですか。クリスマスの奇蹟は被害者であった者が癒やされ、被害者でなくなることを知る時です。今イエスの御名によって過去の重荷が取り去られるように。私たちがイエス様の十字架の前に出るときに、汚かった私たちの人生がクリスマスツリーの美しい飾りのように、人々に喜びをもたらす者となりますように。

(要約者:日名 洋)

(12月24日)